

## 米国 裁判所はサクランボ「新品種」を既存品種と同じと判断

[FreshPlaza 2024年11月4日](#)

### 裁判所はサクランボの「グローリー」と「スタックアート」を同一と判断し、知的財産権を支持

ワシントン州東部地方裁判所による最近の判決で、「グローリー」として知られるサクランボは、カナダ農業・農産食品省が以前に確立した品種である「スタックアート」と同じであると判定された。

この決定は、新たな発見だとして「グローリー」の特許を取得したワシントン州の果樹園主ゴードン・グッドウィン氏と、係争中のサクランボを無許可で流通・販売したとされるヴァンウェル種苗会社及びモンソン果実会社に関する法的紛争の結果として下されたものである。

この訴訟は、果実育種の知的財産を管理するサマーランドバラエティ社(SVC)の研究チームによる遺伝子解析とゲノムシーケンシングの助けを借りて終結した。提示されたDNAの証拠に対する異議申し立てがあったものの、裁判所はその証拠を信用できると判断し、「グローリー」と「スタックアート」は確かに同じサクランボであると断定した。

SVCの統括マネージャーであるショーン・ベアズ氏は、結果に対する満足を表明し、カナダ農業・農産食品省の果樹開発プログラムとそれに貢献した人々の知的財産権を保護することの重要性を強調した。この判決は、果樹育種分野における投資とイノベーションを保護するというコミットメントを際立たせるものである。

出典: [Castanet](#)

## ニュージーランド 9月の寒波でキウイのシーズンは不透明に

[FreshPlaza 2024年11月5日](#)

### 寒波が花の発達に影響し、ニュージーランドのキウイフルーツ・シーズンは不透明に

ニュージーランドの素晴らしいキウイフルーツ・シーズンに対する当初の興奮は、9月の寒さが一部の生産者の花の発達に影響を与えたことを受けて収束した。前のシーズンには31億NZドル(約2,800億円)相当の1億9,700万箱という記録破りの出荷量を達成したが、次の秋(3~5月頃)の収穫については、バイオブレンティ、ギズボーン両地方をはじめとして果樹園全体で着花数にばらつきがあるため、不確実な状況となっている。

フルーシオン園芸会社のコンサルタントであるサンディ・スカロー氏は、一部の果樹園で花芽の形成が中断され、着花がまだらになったことを観察した。このばらつきは、9月の寒さに遭遇した際の花芽の発達段階の違いに起因している。

バイオブレンティ地方の果樹園主であるデビッド・ジェンセン氏は、同氏の2つの果樹園が平均以下の着花数を示しており、果実の収量が前年に比べて30%減少する可能性があるとして、今シーズンの不安定性を指摘した。しかし、同氏は果実のサイズが大きくなる可能性があり、それによって収量の損失の一部を取り戻せるかも知れないと述べた。

これらの課題はあるものの、生育期間は先まだ長いため、業界は依然として希望を持っている。最終的な果実の収量とサイズへの寒さの影響は、まだ完全にはわかっていない。

出典: [RNZ](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)